



あしたかホーム合同大運動会

「高齢者って何だろう？」

春風会 顧問 鈴木 好晴

「あなたも高齢者の仲間入りです。」
と言われ、喜ぶ人は少ないでしょう。
世界保健機関（WHO）では六十五
才以上の人を高齢者としています。

我が国では、この基準を適用し、医
療・保健福祉分野や統計分野など
も六十五才以上を高齢者と定義付
けています。高齢者福祉の根幹をなす
老人福祉法が制定されたのが昭和
三十八年で、この法の中で福祉サー
ビスの対象とする「老人」を六十五
才以上としています。この法律が制定
された頃（昭和四十年）の平均寿命
を見てみますと、男性六七・七四才、
女性は七二・九二才でしたが、平成
二十七年では、男性八〇・七五才、
女性は八六・九九才と約十三才伸び
ています。平均寿命の延びから考え
ますと、高齢者の基準も七十八才、
少なくとも七十五才となります。

こうした状況を踏まえ、老年学会
では六十五才から七十四才までを「
高齢者」と位置づけ、働き手として
社会参加してもらおうという提言を
しております。また、静岡県でも、
十六才から七十六才を「壮年熟期」
と呼称し、「老年」を七十七才からと
しています。

経済面で見ますと、高齢者の平均
貯蓄額は二千四百九十九万円と、全
世帯平均の千七百九十八万円の1・

4倍となつています。「准高齢者」を
働き手として経済活動に参加して
もらうことにより、現役世代の負担も
軽減され、潤沢な金融資産も消費に
回る可能性があります。

こうした効果だけでなく、最も大
きな効果は、「准高齢者」が生きがい
をもち精神的に老け込まず、自立し
た生活を過ごせるということではな
いかと思います。毎日、「高齢者」「お
年寄り」と呼ばれていけば、自然に
老化していくかもしれません。サミ
ユエル・ウルマンは「青春」の詩の
なかで、「青春とは人生の一時期のこ
とではなく心のあり方のことだ。人
間は年齢（とし）を重ねたとき老
いるのではない。理想をなくしたと
き、老いるのである。」と述べてい
ます。

本来なら、個人ごとの評価で「高
齢者」かどうか判断すべきかもしれ
ませんが、法律や制度は「個人」と
いう概念を排除し、一定の基準を
もって全体を評価します。それが法
律の特性であり、限界でもあります。
私たちは、法律の基準に拘泥せず、
ウルマンの詩のとおり、自らの「心
の老い」を抑制し、他者に対しても
個人の特性や能力を尊重し、それら
に応じて接していくべきではないか
と考えるこの頃であります。



北狩野ケアセンター

優良介護事業所表彰



今年度創設されました「静岡県優良介護事業所表彰」において、法人の施設からは、北狩野ケアセンター小規模多機能型居宅介護事業所が応募し、「職場環境改善部門」の表彰事業所に出選されました。表彰式は、9月17日に静岡市にあるツインメッセ静岡にて開催された「ふじのくにケアフェスタ2017」にて行われ、知事褒賞を授与されました。

静岡県優良 介護事業所 表彰制度 (知事褒賞)

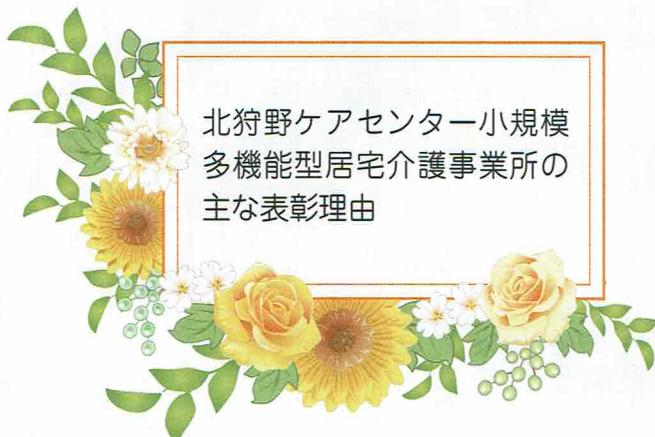
介護人材の確保や介護サービスの質の向上に向け、働きやすく、働き甲斐のある職場環境づくりや利用者本位のサービス提供などに積極的に取り組む静岡県内の介護事業所に対して県が表彰を行う制度。「職場環境改善部門」表彰は、以下のいずれかの取組を積極的に行い、顕著な成果を挙げた事業所が表所対象となります。今年度は応募44事業所の中から5事業所が表彰を受けました。



- ・ 職員の離職防止に向けた取組
- ・ 人材育成のための取組
- ・ 福利厚生の充実

- 新人への指導に中堅職員によるトレーナー制度を導入とチエックリストによる到達度の確認。
- 認定こども園の法人内設置による育児支援。
- 低い離職率、高い3年以上勤続者の割合。
- 施設内外の講師による施設内研修の実施
- 高い外部研修への参加率
- カウンセラーによる巡回相談の実施
- 業務改善提案・アイデア案を募り、優秀者を表彰。

北狩野ケアセンター小規模多機能型居宅介護事業所の主な表彰理由



法人専門部会 障がい委員会活動報告



千葉県香取市の(福)善隣会への視察研修

春風会では各施設長を部会長とした五つの専門部会を設け、各種事業の協議・検討を進め取り組んでいます。障がい者部会は、救護施設、生活介護事業所、就労支援B型事業所、ケアホーム、地域活動支援センターの各種の障害事業所を部会員として、障がい者福祉に関する情報共有や部会企画による合同職員研修会及び施設間の職員交流研修の実施、先進的施設への視察研修の実施など、障がいを持った方々が、自分らしく地域で生活を営む事が出来るようその実現に向けて支援に取り組んでいます。

自立への第一歩 もくせい苑

もくせい苑では主に縫製品の製造販売や各種下請け作業、古紙やアルミ缶などのリサイクル品の回収など、様々な活動に取り組んできましたが、安定した工賃の確保や活動の場の拡大を図るため、地元農家と伊豆の国市の支援を受け、今年三月からトウモロコシの栽培を行いました。土壌改良からはじめ、種まきを行い、七月には大きなトウモロコシが収穫できました。

収穫したトウモロコシを伊豆の国市にある農産物直売所「まごころ市場」と、道の駅「伊豆のへそ」で販売し、九十七本が三十分ほどで完売しました。種まきから販売まで利用者が携わ



地域移行支援とは

障がい者支援施設等に入所している障害者に対して、住居の確保や障害福祉サービスの体験利用・体験宿泊のサポートなど地域生活へ移行するための支援を行うこと。

<先進的施設視察研修先>

- ・(福) 聖隷事業団 (浜松市)
- ・(福) 天竜厚生会 (浜松市)
- ・(福) 善隣会 (千葉県) など

ることで、地域の方とふれあい、農業の喜びを実感し、利用者からは「楽しかった、また販売に行きたい」「新しいことがやれて楽しかった」などの感想が聞かれています。

地域社会における 共生の実現に向けて

救護施設を始めとする保護施設や障がい者の入所施設では、入所者の入所期間の長期化とそれに伴う高齢化が顕著であり、新たな入所者の受け入れや、介護を要する入所者に対する適切な介護サービスの提供が困難であるなど、様々な問題を抱えている状況にあります。

そのような状況の下、沼津市立高尾園における入所者の地域



移行支援の実現に向け、障がい者部会では、救護施設における地域移行支援の取り組みを先進的に行っている県内外の社会福祉法人へ視察研修を重ねてきました。

高尾園では入所者本人の意向確認を行い、現在二名の入所者が施設を退所し、一般企業に就労しながらアパート住まいを開始しました。平日は、アパートで生活し、週末は高尾園で生活をしながら徐々に自立した居宅生活ができるように訓練をしています。

障がい者部会では、それぞれの事業において年齢や性別、疾患名も異なる様々な利用者の支援を行っています。一人ひとりの利用者が少しでも自立した生活が出来るよう、また、支援の幅が広がるようにこれからも活動してまいります。

まのご紹介



伊豆中央ケアセンター

十一月で百三歳になる父が、伊豆中央ケアセンターでお世話になって一年五か月になります。百歳を超えても、食欲旺盛で、家内が作る食事を私と同じように楽しんでいきます。自宅では自由にテレビを観たり、自分でマッサージ機にかかったり不自由なく過ごしていました。足腰が弱くなって、介護サービスを受けることにしました。入浴が大変になり、補助具のレンタルを受けましたが、自宅入浴が無理になり、今は、週三回のデイサービスでの入浴を大変楽しみにしています。デイサービスに行く日を楽しみにしています。表に出待っています。七十九歳の私と七十五歳の妻での老々介護ではありますが、ケアセンターの職員の皆さんと周りの皆さんに助けられ感謝しています。

父には穏やかな日々を過ごしてもらいたいと思います。

(芹澤 政雄)

芹澤 春枝 様



102歳

大正3年11月3日生

石塚 カツ 様



102歳

大正4年5月11日生

芹沢 さと 様



102歳

大正4年10月14日生

大竹 いち 様



101歳

大正5年7月25日生

みはるの丘浮島では百歳以上の長寿者が五名いらっしゃいます。

みはるの丘浮島

前田 のぶ 様



100歳

大正6年4月19日生

小林美節子 様



100歳

大正6年4月27日生

久松 若代 様



100歳

大正6年9月18日生

入居前は、20年近くお一人で暮らしていました。健康の秘訣は、「嵐を応援すること」で、特に櫻井くんが大好きです。オリンピックもお好きで、「東京オリンピックまで頑張るよ」と楽しみにしておられます。

杉山ヒサ子 様



99歳

大正6年12月14日生

沼津駅近くで旅館を営みながら、4人の娘さんを御育てになりました。健康の秘訣をお聞きすると、「何でも食べる。ただカレーは辛いから嫌い」とのことでした。

杉山 忠雄 様



103歳

大正2年12月25日生

百歳過ぎまで自宅では、自転車に乗っていました。ご長寿の秘訣をお聞きすると、「世の中に関心を持つことです」とのことです。今もラジオでニュースや国会中継をお聞きになっています。

あしたかホーム

長寿の皆さ

プレーゲあしたか

入居前の百三歳までは四男ご夫婦と同居されていました。

長寿の秘訣は、好き嫌いなく何でも食べることです。現在も毎日三食全量摂取されています。

あと一つは、身だしなみに決して手を抜かない事です。

まさ子様は、肌も大変綺麗で睫毛も長く、睫毛が自然と上向きにカーブしていらつしやいます。

又、いくつかの帽子を持っていらつしやる為、TPOに合わせて帽子を使い分けていらつしやいます。

朝起きての手ぐしでの整髪も忘れ

ることはありません。

高島まさ子様



106歳

明治44年10月29日生

プレーゲおおひと

今年で百一歳を迎えられます。

昨年には、市長訪問にて長寿のお祝いを頂きました。

息子様も多く面会に足を運んでくださり、親子で、天気の良い日は施設の近所に散歩を楽しまれています。

食事は好き嫌いなく、何でも「おいしい、おいしい」と残すことなく召し上がっています。

また、笑顔がとても素敵なので、冗談を言ったり、昔話をしてくれて、周囲を明るくしてくれます。

石井 彗つ様



100歳

大正6年1月27日生

ぬくもりの里

木村 元子様

大正7年
1月5日生

100歳

飯田 春枝様

大正8年
2月15日生

99歳

西原 末男様

大正8年
3月23日生

99歳

ぬくもりの里では、ご紹介の三名のほか卒寿四名、米寿八名の方のお祝いを致しました。長寿者代表で木村様にくす球を割っていただき、三味線の慰問と職員による演芸で家族と共に敬老会が開催されました。現在七〇名中、九〇歳以上の方は三割以上の二十三名の方がいらつしやいます。今後も益々、お元気で過ごしていただきたく祈願致します。



ふらっと月ヶ瀬



福祉のしごと 学びツアー

▶(水口さんの切り絵パフォーマンス)

静岡県社会福祉人材センター主催の「福祉のしごと学び体験ツアー」が八月三日ふらっと月ヶ瀬を会場として開催されました。

このツアーは県内の東・中・西部の福祉施設を会場に、中学生・高校生・保護者・学校教員等を対象に、福祉施設の見学と福祉体験を通して福祉のしごとを知っていただくことを目的に毎年開催されています。

今回のふらっと月ヶ瀬には三十五名が参加しました。到着後、施設の概要と注意事項の説明、昼食前にはプラムカフェにて管理栄養士より高齢者の食事の説明・試食、昼食はカツカレーを用意し、お替りが出るほど好評

でした。また、食事中にプラム利用者と職員によるプラムバンドの演奏で大変盛り上がりました。午後からはデイサービスとプラムの二グループに分かれて高齢者、障がい者、園児も参加して作品作りなどを共同で、和気あいあいの中で行いました。最後には、切り絵作家の水口千令さんのパフォーマンスを見学して、感性の素晴らしさに思わず息をのむ場面もあり、一日の福祉体験スケジュールが終了しました。



▶(参加者、園児、利用者と一緒に)

高尾園



小学生が高尾園で 福祉体験

沼津市社会福祉協議会は障がいについて学び、共に生きる社会について考える「小学生福祉体験講座」を八月八日 市立高尾園で開き、三年生以上の十二人が参加。施設利用者と農園と一緒に収穫作業を行いました。はじめに、職員から施設の概要や利用者の生活について説明を聞いた後、施設内を見学。利



用者のうち農作業に取り組み「かかしクラブ」のメンバー約十人が管理する農園に移動しトマトやスイカ、キュウリやインゲンマメなどの収穫を利用者と共に行いました。

参加者の中には、初めて野菜を収穫する児童もあり、利用者が収穫方法を丁寧に指導していました。

参加した児童の感想は、「色々な障がいの方がいて、運動や農業などの活動をしている事を知った。話を聞いて勉強になった」と話しました。農園横にある休憩スペースにて、利用者が育てたスイカを皆で味わい、「スイカが甘くて美味しい」「トマトが美味しい」と嬉しそうに話していました。最後に収穫した野菜は児童が持ち帰りました。今回の体験会を通して利用者とうれあい、どういふ人達が暮らしているかを見て、協力して生活貴重な時間となりました。

あしたかホーム



介護のおしごと学び 体験バスツアー

今年度、初めて静岡県主催の「夏休み介護のお仕事体験バスツアー」の受け入れをおこないました。対象は、小学三、四年生とその保護者で、目的は、「核家族化などにより若い世代は高齢者と触れ合う機会が少ない中、一部のマスコミが発信する介護のマイナスイメージにより介護職を敬遠する傾向がある為、学童期の段階から介護に対する理解や興味や関心を高める機会を持つことで、介護分野の人材育成を図る上でのねらいである」とのことでした。

参加者は四一名で、体験内容は、高齢者が過ごす場としての施設の役割の説明と介護体験と食事体験としました。車椅子体験では、初めての事に戸惑う様

子や、はにかみながらも楽しそうに取り組む小学生の姿やそれを心配そうに見て声をかけ、写真を撮る保護者の様子が印象的でした。

食事体験は、介護食としてのゼリー食や軟菜、刻み食の試食体験、施設の食事の試食をして頂き、そこでも初めは戸惑う様子があったものの「味がしつかりしている、美味しい、病院のご飯と同じようだ」と思っていたけど全然違う」と言う感想を多く頂きました。

また、今回、介護のナビゲーターとして活動している佐々木介護士と仲澤介護士が、主になって係わったことで、若い職員から介護の仕事の魅力の発信や身近に感じてもらえるきっかけづくりができたと思います。

あしたかホームでは、昭和五十八年から小中学生の体験学習の受け入れを続けており、昨年までに九千五百十七名の受け入れの実績があります。今回のような事業から、将来の介護の担い手が増えていく様に今後も努力を続けていきます。

あしたかホーム



小・中学生による 福祉体験学習

今年度も法人の各施設において、小学生・中学生の夏期と秋期の体験学習を実施致しました。あしたかホームにおいては、市内六校の小学生（五・六年生）と市内七校の中学生の参加があり、大平中や静浦中、さらには戸田中など遠方よりの参加もありました。

小学生の時に参加した生徒さんが中学生になっても参加すること

施設名	体験学習参加者 (秋期予定者)名
あしたかホーム プレーグあしたか	172 (内68)
みはるの丘浮島	59 (内25)
ぬくもりの里 プレーグおおひと	10 (内 0)
はらデイサービス 駅南デイサービス	69 (内20)
天城デイサービス、ブラム 天城・中伊豆認定こども園	15 (内 0)
あしたかホーム	5 (内 5)
計	330 (内118)

平成29年度の夏期・秋期体験学習参加者人数

が例年通りあり、また今年も高校生になっても参加してくれた方たちがいきました。その一人の高校三年生は、中学二年生から五年連続の参加で、来年福祉系の大学に進学予定です。

「大学生になっても来ます」とのことだったので、この体験学習が今後このような繋がっていかばと思います。末尾に今年の体験学習の感想文をひとつご紹介します。

『やさしい心の仕事』

沼津市立第四小学校 六年 岡澤 美愛

私は、今年初めてこの体験をしました。このあしたかホームには、明るい人や面白い人ややさしいお年寄りの方がいました。最初は何を話せば良いのかな、と迷ったり不安だったりしました。ですが、近くに行ってみると、「どこから来たの?」など聞いてくれたりして、とても話しやすく楽しい時間を過ごすことが出来ました。

また、介護をしている方は、歩けない方や耳の遠い人がいる中でも笑顔で楽しそうに仕事をしています。力仕事でもあり、やさしい心も必要な仕事だと思いましたが、先ほども言ったように楽しそうです。お年寄りの方に合わせて話しているすがたが私の心に残りました。この体験を通して、介護の仕事に関心も持てましたし、お年寄りとの接し方も学べて、とても良い経験となりました。



インカム導入！

職員間の連絡を速やかに、負担軽減と介護効率アップの目的で七月にイヤホンマイク付き携帯無線機（インカム）を導入しました。最大のメリットは一齐に呼びかけができるので、連絡が素早くなり、職員が動き回ることが少なくなりました。さらに新人職員も一人じゃないという安心を感じたようです。

ぬくもりの里6局、プレーゲおおひと4局を保有しています。両施設に基地局（アンテナ）がありますので、電波範囲が広く、チャンネルを揃えれば、両施設間での使用も可能です。納涼祭では、実行委員や駐車場係が携帯し、運営や誘導に便利さを十分に発揮しました。施設内外で使用用途が多く見込まれますので、災害時などにも活用していきたいと思えます。



記録の電子化への取り組み

あしたかホームでは、八月一日より、特養（シヨート含む）、デイサービスにて、記録の電子化に踏み切りました。



導入のきっかけは、平成二十八年二月に富士データシステムが、東京で開催したセミナーに参加したことからです。それまで、何度か電子化への移行の話はあったものの、変わる事のリスクばかりに目が行き、移行に踏み切る事ができませんでした。しかし、セミナーの参加で、変わる事でのメリットの方が大きい事を確信し、導入に向けた取組を始めました。

はじめに役職者間での意思統一、導入施設の見学、システム業者による施設内セミナーの実施、導入に向けた職員への啓蒙、そして、委員会を発足し、より具体的な取り組みへと移行していきました。

委員会活動では、システム業者の担当者に協力して頂き、タイムスケジュールに沿って進めていきました。マニュアルにおいても、物品管理面、使用に際してのソフト面の二点に分けて検討し、電子機器の取り扱いが得意な職員と敬遠しがちな職員が、同じスタートを切れる事を目標に検討をし

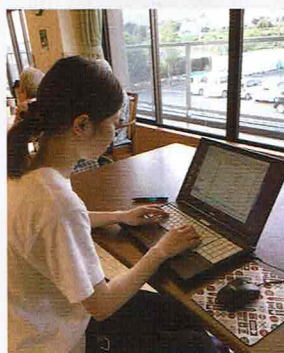
ていきました。

導入後、約二ヶ月経ちますが、予測していたほどの大きな混乱はなく進められています。電子化によるメリットを数値分析する余裕はまだありませんが、情報共有に関しては、無駄なくタイムリーにおこなえています。また、詳細な記録入力ができることから、一つ、一つの記録の意味を再確認したり、電子化をスムーズに活用するために組織体制を再確認したりと、仕事の根柢を見直すきっかけにもなっています。

デイサービスでは、約五十冊の個別ケース記録と連絡帳の記入、各表式や申し送り等を効果的に一つにまとめることが可能となり、情報共有と記録への意識向上へと繋がっています。また、利用者・ご家族から「利用時の様子が写真等でわかりやすくて良い」と連絡帳の活用が好評です。

今回の記録の電子化への移行は、介護現場の将来を見据えた取り組みであり、現場の職員が考えて準備したことに無駄はなく、今後の大きな力になると考えます。

今後は電子化を進めていく中で、記録の分析を進めていき、業務の効率化を図っていきます。





こども食堂 サポぬま かんがる一隊子供



ひとり親の子供に対し食事を提供する為の子供食堂が市内には、大岡・原・ぼんどーる・にじっこ、そして今回紹介する「サポぬまかんがる一隊子供」があります。

これは夏休み期間中に偏った食事またはコンビニ弁当だけで済ませることがないように「サポぬま」は、毎週火曜9時～17時サンウエルの会場をお借りし、大人二百円、小人百円で食事提供しています。

8月22日に行った時は温かいグラタンを頂きました。

調理をされるのは、ひとり親サポーターで、メンバーは蕎麦屋さん、議員さん、高校生、主婦と様々です。参加している子供は約15名。

必要な具材(野菜、米など)はフェイスブックを通して揃い次第、調理されています。

高尾園では、子供たちに喜んで頂けるよう、地域貢献として園内で活動している『かかしクラブ』が畑で栽培し収穫した、キュウリ、ナス、ミニトマト、インゲンなどを届けています。

参加している子供たちは、コミュニケーション、表現力が苦手な方もいるとお聞きします。調理が出来るまでは、サポーターの方も含め、高校生らが話し相手になったり将棋、夏休みの宿題と学習支援を兼ねつつ、食育として日本文化の箸の持ち方、マナー、旬の食材などを伝え、学校が夏休みの間でも、食事と健康の維持、年齢関係なく他者との交わりを深め、各々の力を活かす、伸ばす場だと感じました。

※次回は12月予定とのこと。



認定こども園活動報告



なかいず認定こども園

楽しい英語教室



4月から伊豆市在住のジェレミー先生を迎え英語教室が始まりました。遊びの中から色々なことを体験し学んでいく力を持っている子どもたちにとって、集団ゲームや歌を通して楽しく英語に親しんでいけるこの機会はとても大切だと感じます。「英語教室があります。」と子どもたちに伝えると「先生、名前のシール貼って。」とやる気をのぞかせます。学年ごとに行い、体の部分を自分で示しながら歌を歌ったり、カードを見ながら数や色を答えたり、すべて英語で会話をしています。

今一番好きなのは先生の指示した色のボールを探してくるゲームです。どの子にも笑顔が見られ



楽しんでいきます。終わりに「ジェレミー、グッバイ！」と挨拶する姿は次回の教室への期待につながっています。

あまぎ認定こども園

ちびっこ、習字始めました!

あまぎ認定こども園では、集団生活の中で発達に必要な様々な経験ができるように活動を進めています。その中の一つに、今年は地域からのゲストティーチャーとして、学童保育指導員でもある平田康二先生をお招きして、年長児が習字の指導を受けています。最初に道具の名前とその役割、正しい姿勢、筆の持ち方、墨の付け方など、基本的な事を教わりました。緊張の中で鉛筆やクレヨンとは違う感触を味わっています。まだまだ始めたばかりですが、習字を通して、集中力(一つのことに集中する・心の情緒を育てる)和の世界(静寂な日本の文化に触れる)感動(書けた時の驚きや嬉しさを自信につなげる)等が身に付くように、これからも習字に親しんでもらいたいと思います。



みはるの丘 浮島

安全運転管理推進事業所としての取り組み

今年度みはるの丘浮島は、沼津警察署と沼津地区安全運転管理協会から安全運転管理推進事業所の指定を受け、安全運転推進に向け取り組んでいます。近年の交通事故状況は、死者・負傷者数は減少し、且つ安全運転管理協会に属している事業所の職員による事故の割合は低く、交通事故防止の効果が出ていますが、全死者に占める高齢者の割合は、平成28年では6割を超えており、高齢者の死亡事故が増大しています。

当施設は高齢者の介護施設であり、地域において



も率先して高齢者事故防止に向けて取り組んで行く必要があります。

具体的な取り組みとして、横断幕を掲げ、各部署の安全運転リーダーを選出し、部署目標と施設目標を設定し意識づけを行なっています。5月の職員全体研修では沼津警察署講師による交通安全研修を実施しました。また、自治会の交通安全週間の街頭呼びかけに参加し、地域の交通安全推進にも協力しています。

施設行事のみはる祭りや納涼祭では、沼津警察署と安全運転管理協会に依頼し、安全運転機器の展示と交通安全体験をしていただきました。8月にはKmix主催のセーフティドライバーズキャンペーンに、3チームがエントリーし期間内の無事故無違反に取り組んでいます。このような取り組みで重点としていることは、意識の持続です。交通事故は一瞬の気の緩みから起こります。常に安全運転を意識し、持続を心がけて、最終的にそれが習慣化されることが大事です。まだ前半が過ぎた段階ですが、後半も最後まで気を抜かず、繰り返し交通安全を呼びかけていきたいと思ひます。

就労継続 支援B型 「プラム」

赤い羽根共同募金よりトラック寄贈

今回、寄贈していただいた運搬用トラックは、アルミ缶、古紙回収の運搬に使用させていただいております。一度にたくさんの量を回収でき、荷崩れの心配もなく安心安全で運搬が出来るようになりましたので、利用者の励みや工賃向上につながるようになりました。赤い羽根共同募金にご協力してくださった方々に感謝し、有効に使わせていただきます。ありがとうございました。



●春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-1166 (代) FAX (055) 967-3566

●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター
〒410-2402 伊豆市大野304
TEL (0558) 72-8111 (代) FAX (0558) 72-7297

●特別養護老人ホームぬくもりの里
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-29
TEL (0558) 76-6700 (代) FAX (0558) 76-7511

●特別養護老人ホームみはるの丘浮島
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3355 (代) FAX (055) 969-3385

●障害サービス 生活介護 沼津虹の家
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-2220 (代) FAX (055) 967-3566

●障害サービス 生活介護 あおばの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429
TEL (0558) 76-6702 (代) FAX (0558) 76-6702

●障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47
TEL・FAX (0558) 76-6755

●原高齢者福祉センター
〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL (055) 968-4510 (代) FAX (055) 968-4511

●ふれあいデイサービス(デイサービス一般型)
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-3380 (代) FAX (0558) 83-3380

●天城放課後児童クラブ
〒410-3213 伊豆市青羽47
TEL (0558) 87-1080

●中伊豆放課後児童クラブ
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-2911

●水晶苑生きがいデイサービス(通所事業)
〒410-2323 伊豆の国市大仁74-8
TEL (0585) 76-4697

●救護施設 沼津市立高尾園
〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL (055) 921-5722 (代) FAX (055) 921-5723

●ケアハウスはるかぜ
〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3382 (代) FAX (055) 969-3383

●小規模多機能型施設 北狩野ケアセンター
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860

●地域密着型特別養護老人ホーム
小規模多機能型居宅介護支援事業所 プレーグあしたか
〒410-0302 沼津市東椎路1639-1
TEL (055) 967-3400 (代) FAX (055) 967-3401

●地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299

●障害サービス ケアホーム なぎの家
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437
TEL (0558) 77-1017

●地域活動支援センター サポートセンター絆
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293
TEL (0558) 77-1221

●複合施設 ふらっと月ヶ瀬
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1

・あまぎ認定こども園

TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8201

・あまぎデイサービス(デイサービス一般型)

TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201

・就労継続支援B型 事業所プラム(障害サービス)

TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201

・プラムカフェ

TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201

●片浜・今沢地域包括支援センター

〒410-0874 沼津市松長12-3

TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177

●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター

〒410-2413 伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ

TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302

●なかいず認定こども園

〒410-2505 伊豆市八幡282-1

TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811

●はら居宅介護支援事業所

〒410-0311 沼津市原町中2-7-11

TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334